

歯科臨床と経営の融合『長期的に咬合再構成を成功させる技術と歯科人生を成功させる技術』

日時：令和元年11月17日(日)
場所：梅田センタービル
講師：南 清和先生



萱原 直樹 (滋賀県)



令和元年11月17日(日)梅田センタービルで、第3回関西支部研修会が行われました。

南清和先生より、～歯科臨床と経営の融合『長期的に咬合再構成を成功させる技術と歯科人生を成功させる技術』～というテーマでご講演頂きました。講演の最初に、カウンセリングにおいて、「今後、5年もつ治療ではなく、今後80歳まで、美味しく食べれる治療をします。」と患者さんに説明されていると伺い、印象的でした。咬合崩壊症例は局所的治療対応であれば治癒することはなく、一口腔一単位での対応にて治療のための咬合を与えなければならず、咬合調整が非常に大切であると学びました。レジストレーションストリップを使用した咬合調整を、実際の臨床のムービーを拝見させて頂き、特に、側方運動時の咬合調整が大切だと認識しました。

治療のための咬合とは、1.TMJの安定2.適正なアンテリアガイダンスの付与3.適正な咬合高径、パーティカルストップの設定確立4.神経筋機構との調和で、これらの4項目を踏まえた咬合再構成を達成することが重要であると、再認識しました。咬合再構成の最重要ポイントである、CRバイトの取り方、フェイスポートランスファーを実際のケースを動画を交えて教えていただきました。また、アンテリアガイダ

ンスの与え方について詳しく解説していただきました。開閉口時の前歯部におけるパスウェイが大事で、前歯のパスウェイが出来てないと関節が後方に押し込まれ、圧迫されて顎関節に症状が出たり、発音しにくくなるなど、初めて聞く内容でした。上顎前歯舌側のコンケープ形態が大事で、咬合再構成した症例が長期的に安定するためのポイントを教えていただきました。

講演の最後、院長としての心構え、考え方、スタッフへの対応など、歯科医師として成功する為のエッセンスを聞き、開業して間もない私には、院長としてのあり方を考え直すきっかけとなりました。本日学んだことをすぐ日々の臨床に生かしていくことは、なかなか難しいかとは思いますが、少しでも日々の診療に生かしていければと思います。このような大変貴重な機会を与えていただきをありがとうございました。

